

森林パトロール通信

地元小学生を対象とした 森林教室「水の旅」の実施



令和3年6月28日発行 第3号

昨年は、コロナウィルス感染拡大防止のため中止となった、小田川土地改良区主催による「水の旅」現地学習が、小田川土地改良区からの協力要請があり、五所川原市小田川ダム周辺で地元小学生を対象に森林教室を2年ぶりに実施しました。

6月18日(金)に五所川原市立いずみ小学校4年生14名(引率教員2名)、6月22日(火)は五所川原市立金木小学校4年生41名(引率教員3名)を対象に、「田んぼの水はどこから来てどこへ？」をテーマに小田川水系の農業用施設・用水路等の見学を行いました。



当日、小学生は「小田川頭首工」～水田の水をためて運ぶ役割のある「小田川ダム」を見学し、その後小田川ダム周辺の「水源の森」において、「水をつくる森林」をテーマに金木支署職員による森林教室を行いました。

はじめに、「森林のいろいろな働き」では、地球温暖化防止・土砂崩れの防止・水を蓄えてきれいにする働きがあることや「青森ヒバの特徴」等を学びました

次に、砂・粘土質の土・森林内の土の3種類を並べて、水をかけるとどうなるかの実験を行いました。すると小学生からは「砂と一緒に水が流れてきた。」「粘土のは、水が濁って土の上に水がたまっている。」「森林のは、きれいな水が流れてきた。」等、驚きの声をあげていました。

そのほか、森林が水を浄化する働きを再現した「ろ過装置」の実験を行い、茶色に濁った水を入れると、下からきれいな水が流れ落ちるのを見て一同が「きれいな水が出てきた。」と感嘆の声をあげました。

森林教室終了後には、職員から「ヒバのコースター」がプレゼントされ、笑顔で次の目的地に向かっていきました。

五所川原市立いすみ小学校



五所川原市立金木小学校

